

平成28年5月11日(水)

老球の細道234

## コーチングスタイル

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コーチングが成立する前提には選手とコーチの望ましい人間関係が不可欠である。コーチは自分の性格や選手のレベルなどを鑑みながら適切なコミュニケーションとリーダーシップをとり、選手の能力を引き出しサポートする。その時どのようなコーチングスタイルでコーチの役割を成し遂げるのだろうか。3つのモデルが考えられる。

### 1・社会学的古典的モデル

- \*「独裁者(権力)型」・・・俺についてこい。俺の言うとおりにしろと押しつける。
- \*「民主型」・・・話し合いをしながら、お互いに納得し合いながら進める。
- \*「放任型」・・・選手にまかせながら好きなようにやらせる。

強いチームを作るためには、選手の素質、選手の求めているものを鑑み、権力型と民主型をどのように配分するかがポイントになるだろう。放任型はコーチとして扱われない。

### 2・スポーツコーチング型PMモデル

選手の資質を見極めたうえでのスタイルで、レベルによってコーチングスタイルを発展させていく。P(P a f o r m a n s) M(M a i n t e n a n c e f u n c t i o n)。

- \*第1ステージ「指導型」・・・初級者を対象にして基本や戦略などを教え込む
- \*第2ステージ「指導・育成型」・・・中級者を対象に試行錯誤をさせながら自ら考え問題解決能力を高めさせる。
- \*第3ステージ「育成型」・・・中・上級者を対象に選手自身が直面している問題に対して答えを導きながらコーチ自身のヒントを与えて、選手が自ら行動できるようにする。
- \*第4ステージ「パートナーシップ型」・・・上級者を対象に選手と協力して競技力をさらに高めるよう導いてやる。

### 3・ホトトギス型モデル

このコーチングスタイルはチームに「規律の文化」を形成する時に臨機応変に使われる。

- \*織田信長型・・・「泣かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」  
やる気のないプレーヤーは練習を見学させるか、周囲に悪影響を与えないよう休部。
- \*豊臣秀吉型・・・「泣かぬなら 泣かせてみせよう ホトトギス」  
これが本来のコーチの姿である。やる気、自信をもたせるよう、あらゆる手を尽くす。
- \*徳川家康型・・・「泣かぬなら 泣くまで待とう ホトトギス」  
これもまたコーチの理想である。コーチの仕事は情熱と忍耐がセットになっている。
- \*室井富仁型・・・「泣かぬなら 代わりに泣こう ホトトギス」  
やる気のない選手に代わってコーチが声を出し、個人練習をする。昔の選手はそれだけでコーチにすまないと反省しがんばってくれたが、今は「コーチはコーチ、我は我」。
- \*沢田研二(ジュリー)型・・・「泣かぬなら 勝手にしやがれ ホトトギス」  
やる気のない状態が見られたらコートに出ていかない。昔の選手は反省してすぐにコーチを呼び戻しに来たが、今の選手は本当に勝手にしてしまう。そしてチームは終わる。

自分自身のコーチングスタイルを臨機応変に築きあげ選手とのコミュニケーションを密にすることが重要である。但し信頼関係が前提であることは言うまでもない。